

報告

REHACARE2013

中部学院大学 リハビリテーション学部 井村 保

1. はじめに・展示会概要

2013年9月25日～28日にドイツ・デュッセルドルフで、REHACARE2013（国際リハビリテーション・福祉・介護機材展2013、主催：メッセ・デュッセルドルフ）が開催された。

この展示会は、以前は隔年開催であったが、1999年以降は毎年の開催になっている。今回の展示会場は、図1の写真のように3号館から7号館までである。また、出展社は37カ国から750社、4日間を合わせての参加者は約43,500人（主催者発表）である。日本最大の国際福祉機器展（HCR）2013では、出展は585社（国内526社、海外59社）、来場者は121,044人であり、出展規模の大きさがうかがえる。入場料が7ユーロ/人・日（e-Ticket）であることもあり、参加者数はHCRより少ないが、実際に入場している人は熱心に展示を見ていることといえる。

この展示会に参加したので概要を報告する。

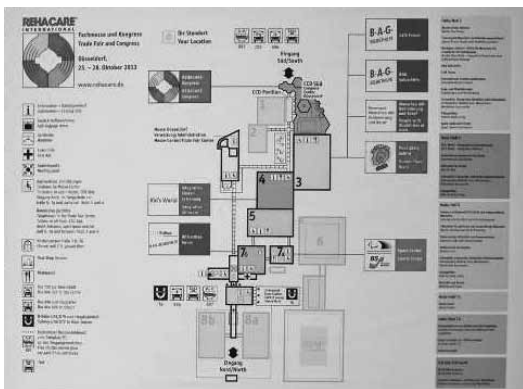


図1 展示会場案内看板

2. 展示会全体の様子・雑感

出展製品は、福祉用具全般にわたり、もちろん日本でも見られるものも少なくない。しかし、国の違

い、すなわち文化や風土の違いを感じさせる製品の出展もみられた。そのいくつかを紹介する。

2.1 車椅子・モビリティ

出展製品で、一番目を引いたのは「モビリティ」である。日本で見かけるような一般的な車椅子に留まることなく、行動・移動性を高め、QOLの向上に寄与する乗り物といえる。

その中でも、特に目を引いたのは、セグウェイ方式の車椅子であり、2社



図2 GENNY 試乗風景

からの出展があり、試乗している人もいた（GENNY MOBILITY社、<http://www.gennymobility.com/>:図2）。

この類の車椅子に限らずトライクや、ハンドサイクルのように代替移動手段を超えて、乗車そのものを楽しむものや、それ自身を利用したレジャー活動のニーズに対応するものも多数あった（Berollka-aktiv Rollstuhltechnik社、<http://www.berollka.de/>など）。

また、常時の移動手段として必要ない人向けとした、電動折り畳み式の物も見られた。折り畳むことで自動車等への収納が容易なだけでなく、キャリーバックのように引いて運ぶことができるものである（DI BLASI社、<http://www.diblasit.it/>:図3）。



図3 Model R30 (DI BLASI社)

中部学院大学 リハビリテーション学部
〒501-3993 岐阜県関市桐ヶ丘2-1

そのほか、2人乗車型の車椅子（というのだろうか）Fun2Go (Van Raam 社、<http://www.vanraam.de/>) もあったが、屋外に出てみるとこれを2台接続させたものも見られた（図4）。これがあれば、自らペダルを漕げない人とも一緒に乗車できそうだった。



図4 接続された Fun2Go (Van Raam 社)

2.2 自立支援ロボット

日本でも知られているロボットアームの Jaco (Focal meditech 社、<http://www.focalmeditech.nl/>; 図5) や、下肢装着型歩行リハビリテーションスーツ等 (Argo Medical Technologies 社、<http://rewalk.com/>; Parker Hannifin 社、<http://www.parker.com/>; Reha Technology 社、<http://www.rehatechnology.com/>) も見られた。



図5 Jaco 試用風景

3. 会場・アクセス

会場を回って展示内容以外で感じたことは、通路の広さである。本邦での展示会では、通路幅が狭く、人気ブース近辺では、車椅子はおろか歩行者でもすれ違いが困難な場合も少なくない。しかし、この展示会場では大きな体格の人も多く、車幅の広い車椅子も見かけたが（出展品にも超大型の機器も見られた。XXL-Rehab 社、<http://www.xxl-rehab.com/> など）、それらでも十分にすれ違いのできる通路幅が確保されていた。



図6 会場内通路

また屋外には、車椅子で利用できる仮設トイレが多数設置されていた。これは、障害当事者にとっても、ゆっくりトイレの順番を気にせずに、展示を見て回わることもできる良い対応と思う。



図7 屋外仮設トイレ

また、会場へのアクセス手段となるUバーン（市内電車）や会場最寄り駅もアクセシブルであった。さらに、展示会の入場券（乗車券込のチケット扱い）があれば、Uバーンにも乗車できることから、事前にオンラインで入場券を購入しておけば、当日に乗車券の確保する手間も不要になる。このような点からも、車椅子利用者であっても積極的な外出を促す社会環境につながっていると考えることができる。

4. 参考・関連情報

展示会の概要及び出展製品の情報は、公式ホームページ (<http://www.rehacare.com/>) から確認でき、また、展示会場内でも Wi-Fi で検索可能だった。現時点でも 2013 年の出展情報が閲覧できるので、それによりその他の出展品を知ることができる。

次回は、2014 年 9 月 24 日～27 日に同会場での開催が予定されている。例年通り日本からの視察ツアー（公益財団法人テクノエイド協会と日本福祉用具・生活支援用具協会 (JASPA) の共同開催）も実施されると予想されるので、訪問に不安がある場合には、このようなツアーを利用することもよいだろう。